

道の駅「風の丘米山」再整備に向けた経過報告

令和 4 (2022) 年度は、再整備後のエリアイメージの検討を進め、今後の基本設計における諸条件の整理を行うとともに、想定される概算事業費及び再整備スケジュールを取りまとめた。

この結果を踏まえ、今後、基本設計受託者を決定するための公募型プロポーザルの手続を進めていく。

1 経過

道の駅「風の丘米山」は、駅舎であった米山山荘の閉館に伴い、平成 27 (2015) 年度から休止となっている。再度、道の駅として賑わいを取り戻し、産業振興に資する観光拠点とするため、これまで検討を重ね、平成 30 (2018) 年度には、官民連携による再整備の可能性を模索してきた。

その結果、市内でも高い認知度と集客力を有し、国道 8 号を挟んで隣接する「日本海フィッシャーマンズケープ」の一部を道の駅に編入することとし、再整備に向けて、関係者と協議を重ねてきた。

令和 4 (2022) 年 6 月に日本海フィッシャーマンズケープを運営する株式会社ニッカイ米山とその親会社である株式会社エムアンドケイと再整備に向けた基本協定を締結し、基本設計調達支援業務委託を実施した。

2 再整備に当たっての考え方

(1) ミッション

柏崎市西部地区の観光による活性化

(2) コンセプト

「海の柏崎」の魅力を体感できる道の駅

(3) 基本的な考え方

ア つなげる

- ・恋人岬や青海川駅、コレクションビレッジなど、道の駅周辺地域に点在する観光資源の周遊拠点の実現
- ・地域と来訪者をつなげ、交流人口増加による活性化の拠点の実現

イ つたえる

- ・各種観光情報の提供による市域全体への波及効果の実現
- ・柏崎が誇る米山や日本海、沈む夕日など眺望を生かした観光認知度向上の実現

ウ ひろげる

- ・官民連携での再整備による集客力と情報発信力の強化
- ・キッズスペースなどの機能追加による新たな層への利用拡大の実現

(4) 主な諸条件を踏まえた想定される施設配置イメージ

別紙のとおり

(5) 基本設計に当たって考慮すべき主な諸条件

再整備エリアのうち国道側の地形は、高低差があるため、公募型プロポーザルの実施に当たっては、次の条件を踏まえつつ、高低差を解消した施設配置計画又は高低差を生かした施設配置計画の両方の提案を可能とする。

ア 基本的な条件

(ア) 国道側

- ・西側（現鮮魚センター側）に駐車場、東側（現キーウエスト側）に道の駅施設、商業施設及び駐車場を配置
- ・道の駅施設（450 m²程度）には、トイレ、情報発信、キッズスペース、休憩コーナー等の機能を整備
- ・商業施設（900 m²程度 2 階建）は、運営会社の意向により、1 階を鮮魚・地場野菜・スナックコーナー、2 階を海鮮レストラン・回転寿司・バーベキューハウス・お土産売り場等を想定
- ・隣接する公共駐車場 40 区画の活用を含め、140 区画程度（うち大型車 5 区画、身障者用 2 区画）の整備を検討

(イ) 丘側

- ・コレクションビレッジ駐車場 110 区画の活用を含め、60 区画程度（うち大型車 2 区画、身障者用 2 区画）の整備を検討
- ・道の駅施設（300 m²程度）は、トイレ、情報発信、防災倉庫、管理スペースの機能を整備
- ・利用促進を図るための芝生広場（約 5,000 m²）、展望デッキ（約 20m×5.5m）の整備
- ・地域連携施設（柏崎コレクションビレッジ）との動線を確保

イ 立地環境に伴う条件

- ・恋人岬への動線の確保
- ・隣接する公共駐車場（駐車区画数 40 区画）との動線の確保
- ・土砂災害警戒区域への対応

ウ その他の条件

- ・官民連携による一体的再整備の統一感の確保（施設配置、デザイン、施設間の動線など）

(6) 想定される概算事業費及び再整備スケジュール（パターン A の場合）

ア 概算事業費（市整備分）14 億 9 千万円

【内訳】

国道側：7 億 7 千万円　　丘側：6 億 2 千万円　　調査設計費：1 億円

イ 再整備スケジュール

令和 5（2023）年度 基本設計（測量、地質調査を含む。）

令和 6（2024）年度 実施設計

令和 7（2025）～9（2027）年秋頃 整備工事

令和 9（2027）年夏頃 国道側休憩施設、商業施設及び丘側の供用開始

令和 9（2027）年秋頃 道の駅及び周辺一帯グランドオープン

3 基本設計受託者決定に向けた公募型プロポーザル

2(5)の主な諸条件などを踏まえた評価テーマを提示し、参加意向申出事業所から再整備に係る技術提案を受け、評価を経て 5 月中旬頃に受託者を決定する。